



大人の油断が事故を呼ぶ

水と花火を安全に

夏になると、昼間は水泳、夜は花火を楽しむお子さんも多いことでしょう。

どちらも夏とは切っても切れない縁のあるものですが、ちょっと親が

油断をすると事故につながるということを忘れないでください。

子供たちに夏を楽しく安全に過ごさせるために、保護者や大人はどうすればよいかを考えてみましょう。

水の事故

夏は交通事故よりこわい

子供「泳ぎにいつてくるよ」
母「車に気をつけるんだよ」

夏の昼間の会話です。でも、ちよつとまわつてくさい。夏に限ると、交通事故死より水の事故死のほうが多いのです。ですから、もう一言「泳ぐ場所にも気をつけるんだよ」とつけ加えてください。

昨年の夏（6月～8月）に、水の事故で死亡したり行方不明

になった子供（中学生以下）は全国で三百三人、一方、この時期に交通事故で死亡した15才以下の子供は二百二人でした。

こうした子供の水難事故の約6割は保護者がそばにいないときに起こっています。また、全体の7割は、波の荒い海や流れの速い川などの遊泳禁止場所で発生しています。

花火の事故

原料は火薬です

夏の夜、庭先での花火は蒸し暑さを一瞬忘れさせてくれるものです。しかし、家庭で手軽に扱っている花火も原料は「火薬」。ちよつと間違つた扱い方をすれば、火事や火傷など思わぬ事故を起こします。

花火で遊ぶときは必ず次のことに注意しましょう。

1 説明書きは必ず読む

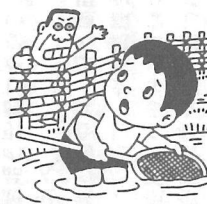
花火に火をつける前には必ず説明書きを読みましょう。それぞれ扱い方が違います。また、花火をほぐしたり、数本まとめて火をつけたりと



大変危険です。

2 場所選び

空を飛んだり、火花が吹き出す花火で遊ぶときは、広い場所を選んでやりましょう。特に、近くに紙くずや枯木など燃えやすいものがないか、よく確かめてください。



大人の注意力が事故を防ぐ

子供を水の事故から守るため、次のことに注意してください。
◎子供だけで行かせない。水辺で遊ぶ子供から目を離さない。
◎必ず決められた場所で泳がせる。

また、風の強いときなどは、花火をやめましょう。

3 大人も一緒に

子供だけで花火をしていると、万一紙くずが火が燃え移っても適切な措置がとれなかったり、服に火が着いてやけどをすることがあります。花火をするときには必ず大人が付き添いましょう。

4 近くに水の入ったバケツを置く

花火の燃えがらを確実に消すには水が一番です。そのために水をはったバケツを用意し、燃えつきた花火やマッチは必ずこの中に入れましょう。



横芝・蓮沼町村民号
臨時特急列車の旅

木曽路から下呂温泉へ

とき・11月13(水)～15日(金) 募集人員・350名
費用・約46,000円 (くわしいことは追ってお知らせします)

予約申し込み受付中

予約申し込みは、電話でどうぞー

☎ 04798-2-1111

横芝町役場 企画空港対策課

